

自動車運送事業の経営改善の取組みについて

1 経営改善計画の概要

交通局は平成 29 年 3 月に「仙台市自動車運送事業経営改善計画（29～33 年度）」を策定した。

本計画は、「平均乗車密度の向上」と「資金不足比率の抑制及び資金収支の均衡」の 2 点を目標に掲げ、①需要の動向を捉えた効果的な運行、②地下鉄との連携の強化、③次世代の職員の育成と技術の確実な継承の 3 つを重点方針として各般の改善策に取り組むこととしている。

計画期間中の収支見通しについては、計画に掲げた様々な取組みを着実に進めることにより、現在の事業量の概ね 8%削減に相当する収支改善効果を見込んでいる。

※ 計画の詳細は「仙台市自動車運送事業経営改善計画の概要」（別紙 1）のとおり

2 取組みの基本的な考え方

(1) 営業費用の削減

運行経路や回送の見直しを行うとともに、需要動向に応じた便数調整等を段階的に行う。

事業量の概ね 5%削減に相当する収支改善効果（3 億円程度）を目標とする。

(2) 営業収益の増加

利用促進の取組みの強化等による増客増収を図るとともに、特別な運賃制度の見直し等を行う。

事業量の概ね 3%削減に相当する収支改善効果（2 億円程度）を目標とする。

(3) 進捗状況の確認と必要な見直し

取組みの進捗状況を毎年度確認するとともに、軽油価格等の費用の動向を注視しながら、必要に応じて追加的な対策を検討し実施する。

3 主な取組みの検討方向

(1) 運行経路や回送の見直し

① 運行経路の重複等が生じている系統について、個々の停留所の乗降実態を精査した上で、経路の見直しを行う。

➤ 南小泉線のうち薬師堂駅で連結している系統 など

② 起終点と営業所間の回送について、近接する経路を営業運行している系統との重複状況や経路上の乗車需要を勘案しながら、効率化を図る。

➤ 恵和町線 など

(2) 需要動向に応じた便数調整

① 需要に応じて多数の便を集中的に運行している朝ラッシュ時間帯について、便ごとの最大車内人数の状況を精査し、利用実態を踏まえた増便・減便を行う。

➤ 直通系統が集約される幹線での最大車内人数45人を目安とした便数調整 など

② 22時以降の最終便について、利用の極めて少ない便の減便を行うとともに、23時30分以降の便の見直しを行う

➤ 最大車内人数概ね5人以下の便 など

③ 基本系統を補完し、地下鉄両線の駅間運行や特定の施設へのアクセス手段として運行している特殊系統について、利用実態を勘案しながら便数調整を行う。

➤ 地下鉄北仙台駅と川内駅間の系統、地下鉄荒井駅と市立病院間の系統 など

※ 参考資料：路線別営業係数（別紙2）

(3) 利用促進等による増客増収

① 安全運行の徹底とお客サービス向上により一層注力するとともに、運行情報や経営情報の発信等の取組みを拡充しながら、利用促進を図る。

➤ どこバス仙台の取組み推進、ドライブレコーダーの活用 など

② 沿線施設や民間事業者との連携事業等に取り組むとともに、広告料収入の確保や資産の有効活用を進めて増収を図る。

➤ タイアップ事業の実施、用地の有効活用の推進 など

(4) 特別な運賃制度の見直し

① 都市整備局、宮城交通と協議してきた都心バス100円均一区間の取扱いについて、IC乗車券導入等の環境変化も勘案して見直すとともに、特別に設定している市中心部の初乗り運賃（170円）を見直す。

➤ 100円→120円、170円→150円

② 学都仙台フリーパスについて、増収減益となっている現状を踏まえ、初乗り運賃である150円区間の通学定期を上回る水準まで引き上げ、収支改善を図る。

➤ 1ヶ月5,140円を800円程度引き上げ